

## 前進力



2002年 遠藤 拓磨

私が関西大学を卒業して4年が経ちました。思い返せば、入学から卒業、そして現在に至るまで、私は多くの先輩方、同期生、そして後輩に支えられてきました。中でも、主将を務めた2002年当時のことは、今でも忘れることができません。

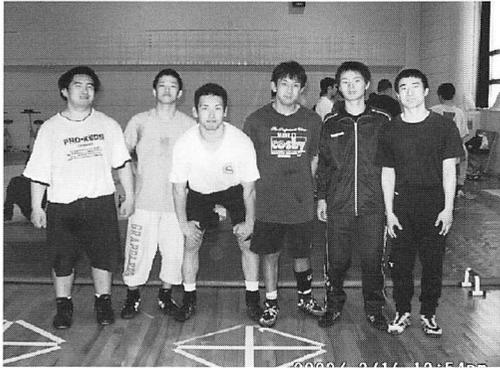
私にとって、関西大学での最後の1年間は、怪我との闘いでした。高校時代に始めたレスリングの集大成とすべき一年、そう意気込んでいた矢先に負った怪我に、当初は理不尽な思いや回復への不安が交錯し、精神的に非常に不安定になりました。また、主将として春期リーグ戦に出場できず、チームが不甲斐無い成績に終わったこともあり、大きな責任を感じていました。しかし、入院、そして単調なりハビリの毎日の中で私を支えてくれたのは、横山監督や安田コーチをはじめとする先輩方の叱咤激励、一緒に練習できない私の代わりに部内をまとめてくれた松浦、そして頼りない上級生に代わって練習を盛り上げてくれた後輩たちの存在でした。特に、高知県宿毛高校での夏合宿では、厳しい練習にも弱音を吐かず懸命に練習に取り組む後輩の姿を見るたびに、私も復帰への意欲を燃やすことができ、結果的に秋期リーグ戦に出場できるまでに至りました。

私にとって、この年の最高の思い出は、何と言っても秋期リーグ戦で関西学院に勝利できたことです。私が関西大学に入学して以降、総合関関戦では一度も勝つことができず、リーグ戦でも4年間で負け越していただけに、喜びもひとしおでした。私自身

は、怪我が再発してしまい、この試合が大学生活最後の試合となってしまいました。関西大学での四年間で学んだ「最後まで全力を尽くす姿勢」を保ち続けることが正しかったと実感できた試合でした。全部員が一丸となって試合に臨み、先輩方が声を張り上げて応援してくれるリーグ戦の醍醐味。それを選手生活の最後で味わえたのは、お忙しい中でも毎週練習に参加して下さった谷山コーチをはじめとする諸先輩の励ましがあつたおかげです。今でも、ふとした時に「あの時怪我をしなければ…」と考えることがあります。しかし、怪我をしたおかげで学んだこと、そして多くの人たちに支えられていると実感できたことを考えれば、今となつては、決して無駄な経験ではなかったと思えるようになりました。そして、この経験こそが、私が指導をする上での原動力となっています。

現在、私は同志社香里中・高等学校でレスリング部の指導を手伝わせてもらっています。そこでは、普段の指導の中で、「絶対に諦めないこと」と「常に全力を尽くすこと」、そして「今の自分に満足しないこと」を生徒に口酸っぱく語っています。これは、レスラーとしては当然のことかも知れません。しかし、当然のことを当然のように行うことの大切さを伝えることは、選手の技術や筋力を伸ばす以上に重要であり、同時に難しい問題でもあると私は考えます。だからこそ、私自身も現状に満足することなく、関西大学レスリング部で培った「努力と向上」の精神を胸に、これからも着実に

歩み続けていきたいと思えます。



春合宿・東亜大学にて

### 「2002年の陣容」

顧問 伴 義孝  
監督 横山博行  
コーチ 相田哲夫・小寺斉人・谷山亮介  
安田忠典・山本茂廣  
主将 遠藤拓磨  
副将 -  
主務 松浦崇明  
副務 平松志保  
学連 -  
4年生 遠藤拓磨・松浦崇明  
3年生 小河暢一・古川典央  
2年生 木下誠志・竹山直輝  
1年生 蔵野友浩・竹中奈々・平松志保  
宮城社司・山岡宏太郎・山岡嘉仁



夏合宿・宿毛高校にて

### 「2002年の試合結果」

JOC杯 全日本ジュニア選手権大会  
女子43キロ級 優勝 竹中奈々  
大阪府民体育大会  
54キロ級 第2位 竹山直輝  
58キロ級 優勝 浅井隆宏 (OB)  
58キロ級 第2位 比与森正志 (OB)  
58キロ級 第3位 蔵野友浩  
85キロ級 優勝 谷山亮介 (OB)  
西日本春季リーグ戦  
2部6位 (0勝5敗)  
西日本学生選手権大会  
G96キロ級 ベスト8 小河暢一  
全日本学生選手権大会  
女子48キロ級 第3位 竹中奈々  
アルキメデス・レスリング選手権大会  
55キロ級 優勝 竹山直輝  
60キロ級 第3位 古川典央  
66キロ級 第3位 松浦崇明  
96キロ級 第3位 山岡嘉仁  
西日本秋季リーグ戦  
2部7位 (2勝2敗)